

室蘭工業大学明德寮々歌

星霜去りて幾春秋
この寮舎に集う若人は変わるとも
久遠に変わらぬ明德の誠とその伝統
友よいざ歌え高らかに我らが寮歌
君の内なる青春の琴線を奏でよ
全ては若きシューレルとしての
感激に帰納されるのだ
保科 盛 (昭30・電) 作

北斗の光

作詞 入江 伸 (昭19・鉦)
作曲 入江 伸 (昭19・鉦)

1. 北斗の光かすかなる
春猶浅き蘭岳の
麓をめぐるこだまこそ
我が明德の健児等が
若き血潮にたぎり立つ
宴の時の声なれや
3. 吉町坂に風黒く
夜霧に沈む明德寮
朴履の音も高らかに
寮舎へ急ぐ男児あり
羽音もさやかになき渡る
一鳥に真理託しつつ
4. 白雪四面を装ひて
北冥の地を覆ふとも
吾等が抱く熱血は
久遠のしるべ押し立てて
赫然天を焦すなり
今こそ行かん健男児

荒涼北州

作詞 田中館敬橘 (昭16・鉦)
作曲 藤岡 啓一 (昭23・金)

1. 荒涼北州秋たけて
蒼ぼう別けしその日より
生誕ここに幾年と
健児謳はん記念祭
2. 水元清しこんこんと
山川何を物語る
混濁の世を遠ざけて
操を守れ明德の
3. 神秘の暗にとざされて
北辰何を啓示する
道なき道を行く勿れ
教厳たり明德の
4. 春の緑の丘に立ち
行き交う雲は繁くとも
都に霧は深くとも
使命に進む六つの寮
5. 影こそ濃けれ紺青の
秋月冴へし我が窓に
歴史染むべき雄渾の
灯し映えん六つの寮
6. 室蘭岳の雪はえて
朔風凜烈すさむとも
旅にしあれば省みん
永久に培へ若き日に
7. 府すれば広し太平
想ぞ馳る多感の日
理想の郷に夢数ふ
生の争斗敗れもと